

し え ん 便 り

教育相談・巡回相談へのご協力、ありがとうございました。

今年度も、たくさんのお子どもたち、保護者の方々、保育園・幼稚園・各学校の先生方からの相談を受けさせていただきました。それぞれの相談件数をご報告します。

教育相談：44件 巡回相談：37件（令和8年1月まで）

※教育相談・巡回相談について、詳しくは「みくまの支援学校ホームページ—教育相談・巡回相談」に記載しております。お困りのことがあれば、お気軽にご相談ください！

伝えたい気持ち、手にのせて

巡回相談の一環として、小学校と高等学校で手話体験教室を行いました。

小学校では、県立南紀はまゆう支援学校の教員と一緒に、聴覚巡回相談の一環で取り組みました。自分の名前を指文字で表したり、校歌に手話をつけてみんなで練習したりしました。

子どもたちは初めて触れる表現方法に興味を持って取り組み、「もうできるよ!」「わすれちゃうよー」「またやりたい!」と、元気な声がたくさん聞かれました。校歌や自分名前と結び付けることで、手話が身近なコミュニケーション手段として感じられる機会となりました。



高等学校では、聴覚障害のある方を講師に迎えた手話体験教室が行われ、その通訳を担当しました。クリスマスを題材に様々な表現に触れたり、講師の先生への「手話はどうやって覚えたらいいですか」「どう表現したら伝わりますか」といった生徒の質問は、手話に向き合う中で誰もが感じる悩みでもあり、共感しながらうなづく場面も多く見られました。私自身も改めて学び続けていきたいと感じる、あたたかな時間となりました。

手話に触れる子どもたちが増えていくこと、そして手話に関する相談や依頼が広がっていくことを、とてもうれしく感じています。これからも特別支援学校の教員として、学校や地域、関係機関をつなぐ存在として、一人ひとりの「伝えたい」「わかり合いたい」という思いに寄り添いながら、支援の輪を広げていきたいと思えます。



し え ん 便 り



きっかけがつなぐ 交流の輪 — 中学部交流学習より —

みくまの支援学校中学部では、毎年、近隣にある光洋中学校の2年生と交流学習を行っています。今回の交流学習は、「互いの学校の生徒が活動を通して親しみを深め、協力し合う楽しさを感じることを目的として行いました。

そんな交流学習の中で見つけた良いシーンを、2つ紹介します。



それ、好きなんだ！

交流学習を行う上で、1人ずつ自己紹介動画を作成してもらっています。事前学習では、お互いの学校でその動画を見ました。

好きな物が同じ生徒を見つけ、「〇〇、好きなんだ！」と興味を持ったり、実際に声を掛けて、盛り上がりたりしている生徒たちの姿を見ることができました。子ども同士の交流のきっかけとして、「好きな物」は最強のカードなのかもしれませんね。



〇〇くん、キターー！

今回の交流学習では、モルック、スカッドボール、ボウリングなどの活動を行いました。いずれも、チームスポーツで、「だれでも簡単にできる」競技です。

普段からモルックが得意な、Aくん。人見知りで、あまり自分から関わりに行くことはありません。1回目、2回目と高得点を叩き出し、次にAくんの番になると、みくまの、光洋中関係なく、「〇〇くん、キターー！」と大盛り上がり。得点を決めたAくんは、とても良い笑顔で、自然とチームメイトとハイタッチをしていました。

子どもたちは、ちょっとした“きっかけ”と“ワクワク”があるだけで、自然と交流を始めてくれます。そんな、子どもたちが持つ可能性を、改めて感じる交流学習になりました。



支援のヒントは、上海のレジ前にあった？！

—終わりが見えると、人はこんなに安心できる—



この前、初めて上海を旅行しました。お店で買い物をしたとき、中国語で話しかけられてほとんど理解できず、なんとか支払いを終えたものの、品物はカウンターに置かれたまま。日本だと手渡してもらえるので「これで終わり？」「もう行っていいの？」と、ちょっとドキドキしました。言葉も文化も違う中で、「終わりがわからない」という感覚がこんなに落ち着かないものだとは…大人でもびっくりです。



同僚からも似たような話を聞きました。エジプトでタクシーに乗ったとき、「すぐ着く」と思っていたのに、どれだけ走っても目的地に到着しない。運転手は何かを話しているけれど意味がわからない。しかも一緒にいたのは、アームレスリングの選手たち。体の大きな大人が3人。筋肉も腕力もあるはずなのに、「本当に着くの？」という不安にはまったく抗えませんでした。

言葉と見通しの不安には、誰も勝てないんですね。

——ちょっと笑えて、でも共感できる話です。



こうした“わからなさ”や“見通しのなさ”は、私たちが思っている以上に心をざわつかせます。もしかすると、子どもたちが学校生活の中で感じているのも、こんな感覚かもしれません。活動の順番や終わりが見えないと、不安になったり、動けなくなったりすることがあります。

「次に何をするのか」「あとどれくらいか」「どうなったら終わりなのか」——それがわかるだけで、安心して行動できます。私たちが見通しを示したり、終わりをわかりやすく伝えたりする工夫は、子どもたちの安心を支える大切な支援なのです。



し え ん 便 り



特別支援教育コーディネーター等連絡協議会を開催しました！

8月4日(月)に特別支援教育コーディネーター等連絡協議会を開催しました。今年度も、たくさんの先生方にみくまの支援学校までお越しいただきました。

インクルーシブ教育について

～全ての子どもが分かりやすい教育を届けるための工夫～



前半は、本校教諭 望月・有本から、インクルーシブ教育の大まかな内容やみくまの支援学校での実践例について講演を行いました。

講演を受け、後半は分科会を実施しました。校種も勤続年数もバラバラな先生方で、それぞれの学校で行っている実践や困っていることなどについて、ざっばらんに意見交流を行いました。

★先生方からは、こんな感想をいただいています。

- ・人に認めてもらい、全ての子どもがわかりやすい教育を受けることで、その先の長い人生が輝けることにつながるのだと理解しました。
- ・分科会で、自分が困っていることなど話をしてアドバイスをもらえてよかった。

私たちのグループでは、若手の先生の悩みに、ベテランの先生方が親身になってアドバイスをしてくれました！

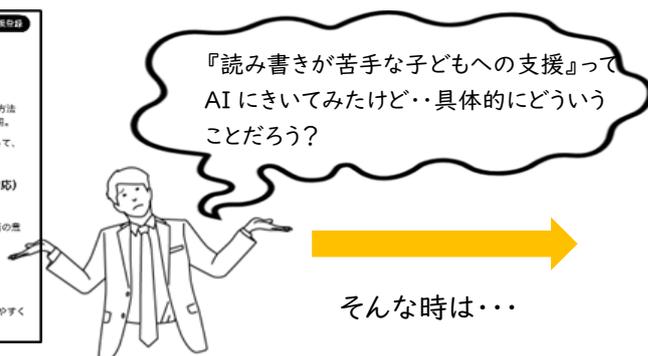
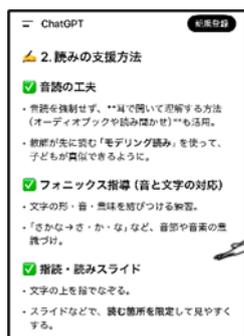


AI が得意なこと・私たちが得意なこと —教育相談の新しい形

今、AI は私たちの生活に欠かせない存在となり、計画を立てたり、悩み相談をしたりとさまざまな場面で活躍しています。最近では、相談事業に AI を導入する自治体も増えており、その波は広がりつつあります。未来には、新宮や東牟婁地域にも「教育相談 AI」が登場し、子どもたちの学校生活をサポートしてくれる日が来るかもしれません。

しかし、AI にはできない「人だからこそできる教育相談」の重要性は変わりません。家庭環境や友人関係、個々の不安など、学業成績や進路だけでは解決できない問題には、人との対話が不可欠です。AI がいくら迅速に対応策を提案しても、目の前の子どもに本当に必要な支援を選ぶのは人の力です。また、支援に必要な教材や教具を実際に手に取って使うことができるのも、訪問型の巡回相談の良さです。

AIのサポートと人の共感が組み合わせることで、教育相談はさらに豊かになります。AIでは補えない部分を人が支えることで、子どもたちの成長をより強力にサポートできるのです。ぜひ、巡回相談を活用し、共に子どもたちの未来を支えていきましょう！



『みくまの支援学校巡回相談・教育相談』にお申し込みください！
TEL: 0735-31-6101



今月のコラム

集団と自己

Fさんは小学生。書きことばの獲得期の諸課題に障害がありました。友だちから「仲間はずれ、にされた経験があり、集団から孤立し、周囲に積極的に関わることができません。寡黙になっていたFさんは高学年になり、施設に入所し度々「噴火」するようになります。他の子どもたちをばかにして自分はそうでないことを強調し、暴力を振るい、集団を壊すこともしばしばありました。指導者は集団で討議し、三つの「教育集団」を用意します。一つ目は生活年齢が比較的共通な集団、二つ目が共通の学習課題をもった集団、三つ目は生活年齢や学習課題の違いを超えた労働・サークル活動の集団でした。それらの集団に参加することでFさんは次第に友だちの「いいところ」を見つけていきます。それは自分を肯定する材料にもなっていました。そしてその関係性の中でFさんは「一ダ！」の世界から「一デハナイダ」へ、そして「一だけれど一する」、「一したい、そのためには一しよう」という生活のきりひらきかたをするようになっていきました。それは書きことば獲得に立ち向かっているFさんにとって豊かな文脈をつくりだすために必要な集団と自己とを結びつける取り組みでもありました。

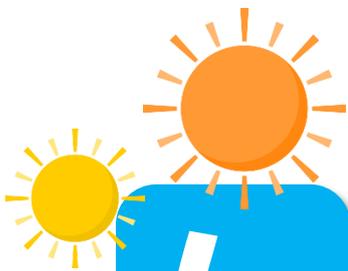
Fさんへ手を差しのばしたものの。それは、それぞれの目標をもった多様な集団への参加が用意されたことにありました。そのような環境の中で友だちの意外な姿の発見があり、自分が「できること」の気づきがあり、それを繰り返すことでよりよい自分作りへの要求が高められる。多様な集団でそれぞれのつながり・相互関係の中で生まれる必須矛盾※や揺れながら積み上げる小さくとも確かな「自信」が彼らの新しい自分作りの素材になっていく。

生活や教育の中で一つの物差しで悩みもがく子どもたちがひとりでも少なくなりうるように私たち大人が用意するものは多岐に及ぶと思います。

Co 浦木

※必須矛盾：大きくなろうとする自我と他者、集団、友だちとの関係の中で生まれる心理的な衝突・葛藤のこと。当時京都大学教育学部教授の田中昌人は人間の個のまた集団の発達に欠かせないものとした。

引用・参考文献：「発達保障への道」2006.田中昌人.全国障害者問題研究会出版部



し え ん 便 り

汗ばむような日が続き、夏の訪れを感じる季節となりました。

みくまの支援学校では、今年度も『相互往還』の考えのもと、みなさんと一緒に特別支援教育について考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

今年度の特別支援コーディネーターです。

金田有史 中本憲央 尾崎賀津 望月信吾

中瀬真由美 立溝好美 浦木隆 新開佑香 鍋屋杏実

よろしく
おねがいします



今年度から加わったメンバーの自己紹介です！

はじめまして、金田有史(かねだともふみ)です。地域の方々の困っていることや悩みに寄り添い、子どもたちに必要な支援について、みなさんと一緒に考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

一年ぶりにみくまのへ戻ってきました、立溝好美(たてみぞよしみ)です。

キラキラした子ども達の眼差しに、たくさん刺激を受けて今年も一年頑張りたいと思っています。どうぞ宜しくお願いします。

みくまの支援学校のセンター的機能

センター的機能。それは、特別支援教育の相談センターとしての機能です。みくまの支援学校では、『共に考え、学び合う』相互往還を目指したセンター的機能に取り組んでいます。

今回は、夏に開催を予定している『みくまの支援学校 Co 等連絡協議会』について紹介します。本会は、特別支援教育に関することをテーマにし、講演や情報交換会を通じて共に考え、学び合うという内容のものです。昨年度は、『集団の中で共感と自己肯定感を育む』～9・10歳は具体的思考から抽象的思考・論理的思考への移行期をテーマに開催いたしました。今年度、『インクルーシブ教育』をテーマとして開催する予定です。きっとたくさんの気付きや学びがある充実した時間になると思います。皆様の参加をお待ちしています。

※令和6年度の講演動画についてはアーカイブでご覧いただけます。

よろしければ右記コードよりご視聴ください。



令和7年度特別支援教育コーディネーター等連絡協議会開催のお知らせ

7月初旬にお知らせを送らせていただきました。お手元に届いていますでしょうか？
昨年度は約5年ぶりに対面方式での協議会を実施することができ、たくさんの先生方にご参加いただきました。ありがとうございました。

今年度も対面方式で、「インクルーシブ教育」をテーマにたくさんの方と情報交換や意見交換をしたいと思っています。ご参加お待ちしております！！

《日時》8月4日(月) 13:00~16:30

《会場》みくまの支援学校

《内容》「インクルーシブ教育について」

～全てのこどもにわかりやすい教育を届けるための工夫～

総論：「インクルーシブ教育について」みくまの支援学校 教諭 望月 信吾
実践例紹介：「小学部交流学习から見たインクルーシブ教育」

みくまの支援学校 教諭 有本 松子
各グループに分かれて分科会：「各校が実施もしくは意識して取り組んでいること」
「インクルーシブ教育の課題について」 など

※今年度講演会はありませんので、オンラインでの配信はありません。

《申し込み》

*専用申し込みフォーム、またはFAXでお申し込みください。

*締め切りは7月18日(金)

*お問い合わせは みくまの支援学校支援部まで TEL:0735-31-6101

お申し込みはこちら



いろいろな教材教具

教育相談で使っている教材教具の紹介です。ぜひ参考にしてください。



かたちあわせパズル
(タングラム)



マグ・フォーマー
どの形で作るか
な？、どのおきだろ
う？と、試行錯誤と
レベルアップでさら



絵カードとポスト



きくきく
ドリル

「これなんだ？」と
クイズをして正解し
たカードをポストに
いれたり、問題を聞
き取って答えたりと
楽しく言葉に親しめ
ます。



クラッシュアイス
ゲーム

順番にルーレットを
回して出た数の氷を
叩いて落としていく
と・・・

待つのが苦手な子
も、ドキドキハラハ
ラしながら相手の番